

Peace Wave

Live in peace. Live with a smile.



第30号(2015年5月30日発行)

アジア子ども交流支援センター

AISCC
Asia International Exchange and Support
Center for children (略称AISCC)

〒380-0084 長野県長野市若槻東条515-3

TEL026-295-9815 FAX026-295-9810

<http://wwwaiscc.org/> 【一部120円】

ミャンマーの子ども達との交流 ～15年の交流の歩み～



青木正彦

(法人団体で講演した内容を抜粋)

私たちが初めてミャンマーを訪れたのは、2001年7月のことです、もう15年になります。私の訪問は17回を数えます。

最初にミャンマーを訪問した目的は、ケナフの生態観察でした。滞在中に村の先生から「外国人がこの村に来ることは珍しいので学校に寄って欲しい」と要請を受けました。村の学校は日本とは全く違う教育環境でした。電力不足から工業生産が遅れている国ですから紙の製造は僅かで、貴重品です。子ども達はノートではなく石盤を使って授業を受けていました。

先生や子ども達との交流の場で訪問団の年輩者が「来年は村のケナフを使って紙漉きをおしえてやろう」と発言。私は「誰が来るの」と思わず心の中で叫んでしまいました。この村まではハイラックスの荷台に9時間揺られて400キロを移動して来たからです。



帰国し、反省会と称して飲み会を行いました。話題はやはり再訪問のことです。子ども達に外国人の私たちが約束をしてきたようなもの。子ども達に嘘を言う訳にはいかない。「約束を果たす」ことを決意し翌年も訪問。それから交流支援活動が始まり15年になりました。

2002年からは文房具の支援を始めることになりました。まずケナフの栽培や後利用で関係を持っていた小中学校の児童生徒に呼びかけました。机の中や家で使われていないノート、鉛筆、消しゴムなどの提供を求めたところ、驚くほどの数が集まりました。



ミャンマーの子どもたちは学習意欲が高く、好奇心が旺盛で、両親や学校の先生の言うことを良く聞き、尊敬していました。また、学習する目的を明確に持っていました。勉強して良い職業につき経済的にも豊かになりたい。お世話になっている人や地域に恩返しをしたい。立派な人間として生きて行きたい。というものでした。生きること、学ぶこと、働くことがばらばらではないのです。

日本の子ども達は、なぜ勉強するのかその目標がはっきりしておらず、良い点数を取りさえすれば良いと考えている児童生徒が多く、生きること、学ぶこと、働くことをばらばらに教えていることが問題です。

現地では、毎回 1000 人～2000 人の子ども達に文房具を一人ひとり手渡しで差し上げてきました。必要な人に確実に届けるには、この方法が一番でした。まとめて誰かに託すと届かないことも考えられたからです。



日本の生徒児童が書いた布絵も届けました。日本のことや自分達の気持を知らせようと一生懸命に書いてくれました。古くはなって来ますがその布絵はミャンマーの学校にいまでも飾られ大切にされています。他にもサッカーボール、楽器、タオル、Tシャツなどいろいろな品々を送ってきました。校舎の修繕建設や井戸掘りなども支援しています。

メンバーの訪問にかかる費用は、基本的に自己負担です。だから訪問に参加するのには覚悟が要ります。

★おしらせ★

古布を集めています

震災被災地の岩手県下閉伊郡にある「ハッタクの家」に裂き織り用の古布を送っています。今後も随時集めますので、不用の古布がある方は事務局までお持ちください。

AISCC にご入会ください

AISCC はミャンマーを中心にアジアの国々の子どもたちや教育関係者と交流し、私たちのできる範囲で支援をしています。多くの方に参加していただきたいと考えています。過去に AISCC の活動に参加していただいた方にはこの会報をお送りしています。ぜひご入会いただき、活動にご協力ください。

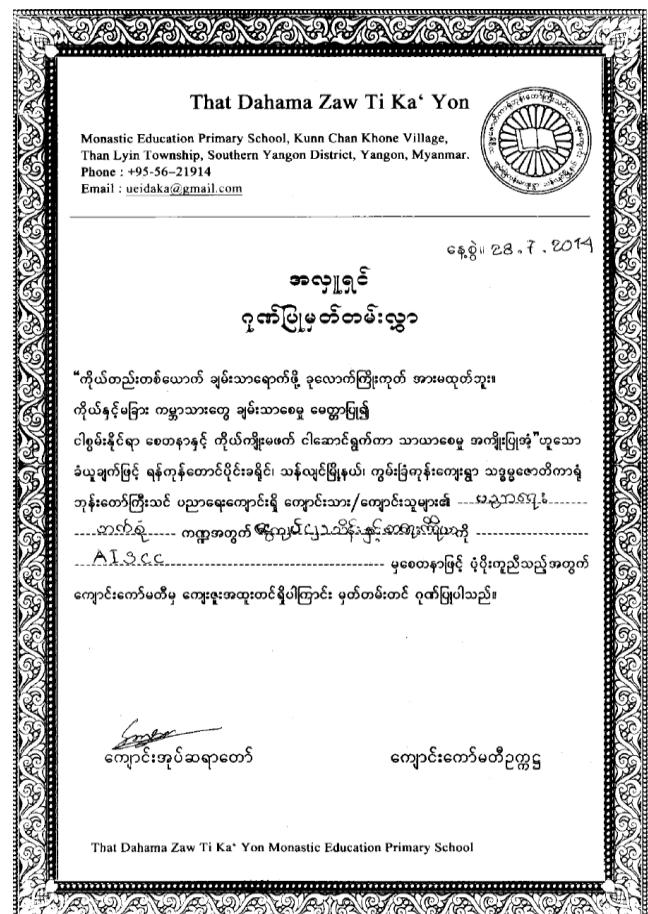
目的を理解し、時間とお金を使う必要があるのです。そのため今までとは違った生き方を考えるようになります。ここが活動を続けていく最大の特徴だと私は考えています。同じアジアで暮らす人々を理解し助け合って生きていくことの素晴らしさを感じることができます。私たちは、民間外交官だという意識で活動を続けています。



感謝状をいただきました

AISCC ではミャンマーの僧院学校などに文房具などを差し上げていますが、その活動に対して感謝状をいただきました。15 年間の活動の間に、日本とミャンマーの子どもたちの間に、たくさんの交流が生まれました。

これからも交流を通じて、相互理解を深めていきたいと思っています。





第11回総会を開催

5月9日、長野市にて AISCC の第11回総会を開催しました。

総会では2014年度活動報告が行われ、続いて2015年度の予算案と活動計画が承認されました。2014年度は、ミャンマー訪問に6名が参加したほか、東日本大震災被災地支援としてハックの家に古着物を送るなどの活動やアジア料理教室を実施しました。

2015年度は交流支援活動としてミャンマー訪問やネパール震災被災地の支援活動を予定しています。活動計画は次の通り。



1、交流支援活動

▽ミャンマー訪問実施

▽震災被災地である岩手県にあるハックの家、はまなす学園に対する支援

▽ミャンマー飛燕記録誌を発行

▽ネパールの震災支援活動

2、各学校での活動および他団体との連携

▽学校などから国際交流支援の要請に応える

▽他団体と情報交換を行う

▽アジア各国の文化を知る活動（料理教室を年1回以上開催）※料理教室 12月5日（土）ベトナム料理を予定

3、広報および組織強化活動

▽各イベントへの積極的な参加による支援国の物産販売およびPR活動

※ハーモニー「夢」まつり 10月31日（土）

▽HPや「Peace wave」を活用し、活動の報告や会のPRに努める

▽企業団体への呼びかけと会員拡大に努める

AISCC の主な活動履歴

これまでの AISCC の訪問支援・交流支援活動をまとめました。

——AISCC 設立につながった活動履歴———

< NAGANO ケナフの会としての活動 >

2001/7/18～7/23 ミャンマー訪問（8名）

< グローバル教育支援センター（GRES）と連携した活動 >

2002/8/3～8/10 ミャンマー訪問（14名）

2003/4/7～4/12 ネパール訪問（2名）

2003/4/13～4/16 ミャンマー訪問（2名）

2003/8/4～8/11 ミャンマー訪問（11名）

2004/4/26～5/2 ミャンマー訪問（2名）

2004/8/1～8/8 ミャンマー訪問（5名）

2004/12/17～12/26 ミャンマー訪問（1名）

2005/2/21～2/26 中国訪問 北京市（1名）

——AISCC 設立後の活動履歴———

2005/4/10 アジア子ども交流支援センター設立総会開催

2005/7/30～8/7 ミャンマー訪問（5名）

2005/10/5～10/9 中国訪問・北京市（2名）

2006/6/21～6/25 中国訪問・モンゴル植林地、中国蒙古正藍旗蒙古小学校（1名）

2006/7/26～8/2 ミャンマー訪問（9名）

2007/2/10～13 中国訪問・北京市倍新小学校（5名）

2007/8/13～8/18 タイ・ミャンマー訪問（6名）

2008/12/10～12/15 ミャンマー訪問（4名）

2009/9/23～9/28 ミャンマー訪問（6名）

2010/9/15～9/22 ミャンマー訪問（名）

2010/9/26～10/21 ミャンマー訪問（1名）

2011/9/20～9/26 ミャンマー訪問（6名）

2012/7/16～7/17 東日本大震災現地訪問（5名）

2012/8/12～8/17 ミャンマー訪問（5名）

2013/5/2～5/3 東日本大震災被災地訪問（4名）

2013/8/24～8/30 ミャンマー訪問（5名）

2014/7/26～8/1 ミャンマー訪問（6名）





・・・ミャンマートピック・・・

漂流するロヒンギヤ（族）

ロヒンギヤは、ミャンマー西部のラカイン州やバングラデシュ東部の国境一帯に住むムスリム（イスラム教徒）の人々。もともとはバングラデシュに住んでいましたが、かつてミャンマー西部に存在した「アラカン王国」に傭兵として雇われるなどして、バングラデシュとミャンマーの国境地帯に定住したとされています。

ラカイン州ではアラカン人とロヒンギヤの間で紛争が頻発していますが、その始まりはイギリス統治時代の植民地政策によって土地を失ったアラカン仏教徒と、その土地をあてがわれた移民のイスラム教徒の対立にさかのぼるという説もあります。英領行政の破綻により、失地を回復したアラカン人はロヒンギヤの迫害と追放を開始しました。

1982 年の市民権法ではロヒンギヤの国籍が剥奪され、ミャンマー政府はロヒンギヤを不法移民とみなすようになりました。後にロヒンギヤがウンサンスー氏の民主化運動を支持すると、軍事政権はロヒンギヤに対して激しい弾圧を行いました。このような経緯からロヒンギヤは現在も差別と迫害の対象となっています。

1991 年から 1997 年の間に 2 度、大規模な数のロヒンギヤが国境を超えてバングラデシュへ流出しましたが、UNHCR（アンカー・国際連合難民高等弁務官事務所）の仲介によってミャンマーに再帰還させられました。2015 年現在、膨大なロヒンギヤの国外流出と難民化が続いています。

UNHCR は関係諸国に保護を求めていますが、タイやマレーシアなど周辺諸国はロヒンギヤを難民認定していないため、不法入国者とみなされて罰せられることがあります。

今年 5 月 20 日、マレーシア、インドネシア、タイの 3 か国外相が会談し、ロヒンギヤの一時的な受け入れ施設を設置することで合意しましたが、タイは自国への施設の設置について態度を保留しています。

また、ミャンマーのティンセイン大統領は、自国民と認めていないロヒンギヤの帰還受け入れに消極的な姿勢を示しています。

ミャンマーの教育支援募金にご協力を！

文房具や教室の机等の現地購入資金および学校への井戸建設費用などにあてられます。文房具を現地調達とするのは、日本から持ち込むには限界があること、現地の方が安く買えること、また現地購入によって支援国の経済に少しでも寄与しようという意図によります。

【募金振込口座】

■八十二銀行

浅川若槻支店 普通預金 367551

アジア子ども交流支援センター

■ゆうちょ銀行

記号 11150 口座番号 30343191

アジア子ども交流支援センター

★★会員募集★★

1.正会員（年会費/個人 3,000 円・法人 10,000 円）

2.賛助会員（年会費/個人 10,000 円・法人 30,000 円）

入会申し込みは事務局026(295)9815

編集後記

■AISCC の前身ともいえる「NAGANO ケナフの会」がホームページを構築したのは 15 年前でした。つまり「インターネットがなかった時代」をほぼ知らない世代がもう成人しているんですね。この間インターネットは人類を幸せに導いたのでしょうか？（塚）

■今年は AISCC 発足 10 周年。偶然ですが、今年が 10 周年というお店や団体を他に 2~3 件は知っています。10 年前はどんな世の中だったのか、そしてこれから 10 年でどう変わっていくのか、明るい未来であって欲しいと思います。（島）

■歳月人を待たず。まさに矢のごとく過ぎた 10 年ですが、その間にさまざまな出会いがありました。歳を重ねるばかりで、何事も続かない自身を反省しつつ、確実に足跡を残してきた AISCC に拍手！（中）

■数年前に特別支援学級を卒業した生徒たちとの同級会がありました。車の免許をとり一人前に仕事をこなしている生徒、専門学校で福祉を学習している生徒。会計のとき「先生の会計は俺たちがもつよ」の一言。大きく成長した教え子たちと至福の時を過ごしました。（北）

